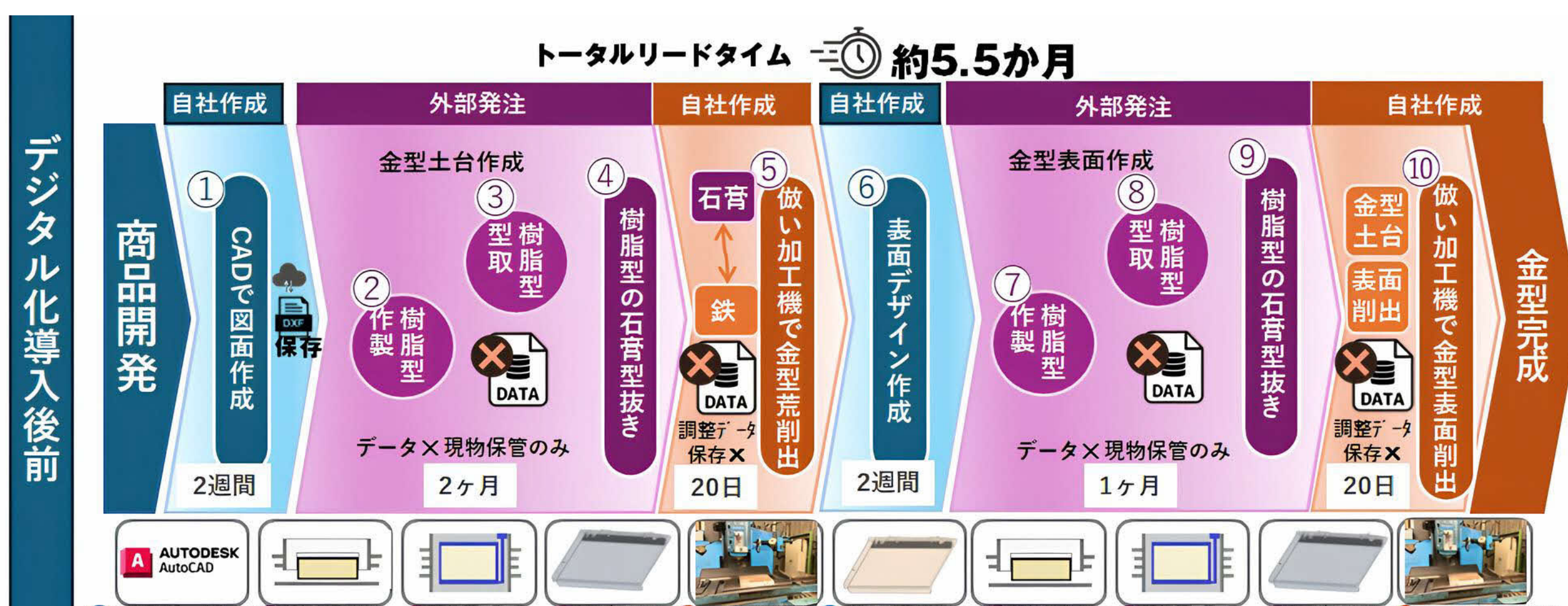


金型のデジタル化で収益力アップ！

取組みを始めた背景

金型の開発や製作には高い精度が必要で
熟練者が必要→ **属人性が高い**

金型製作には多くの工程があり、
時間がかかる **(平均 5.5 か月)**



古い金型には紙図面がなく、型を厳重に保管
する必要がある
→ **広い場所と
管理体制が必要**



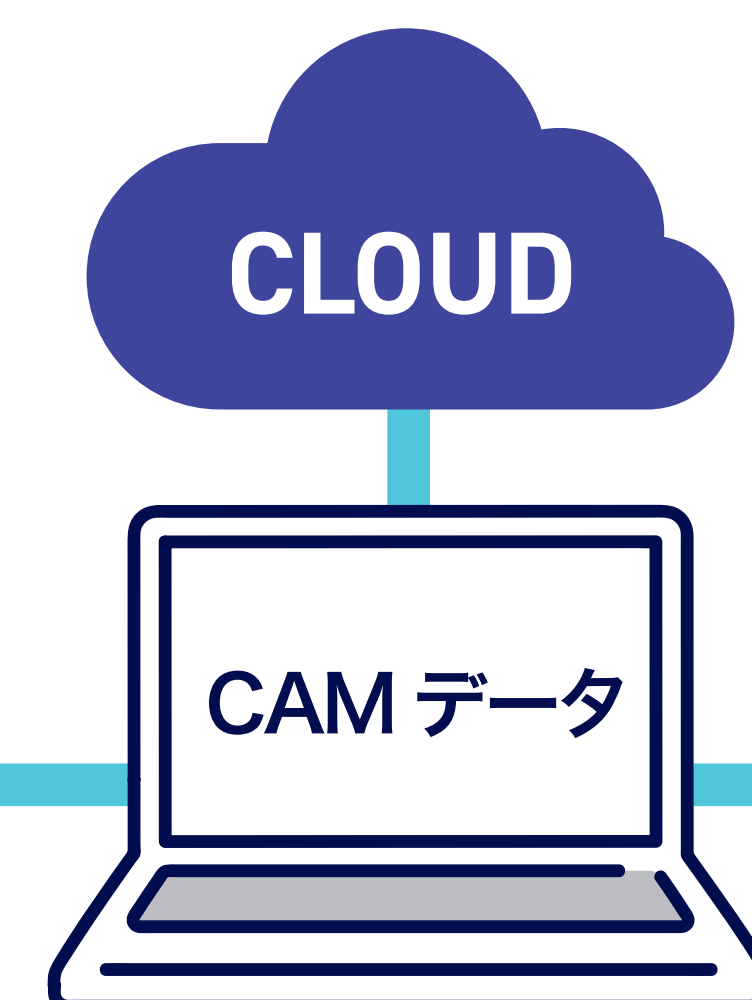
富士スレート 株式会社

製瓦製造システム（設計・施工・販売）、瓦用塗料
販売、屋根施工工事などを行うメーカー

取組み内容

3D スキャナ型三次元測定機の導入
図面データの無い型を CAD データに変換

3DCAM と NC フライス盤の導入
● CAD で設計した金型を NC フライス盤
で直接製作
● 複雑な形状でも高精度に製作



効果（成果）

1 属人性の低減

- CAD で設計した金型を NC フライス盤で直接製作できるため、**熟練者への依存が大幅減**

2 リードタイムの短縮 【約 5.5 か月 ⇒ 約 1.5 か月 **(4か月短縮)**】

- 外注部分（樹脂型製作工程）がなくなる
- NC フライス盤の導入により加工時間が短縮

3 スペースの有効活用

- 金型をデータ化することで**現物保管が不要に！**
- 空きスペースを**新規事業や他事業で有効活用！**

今後の取組み

データ化により不要になった金型を新たな金型作成の材料として活用

新たな収益源となる新事業を展開

- デジタル化された金型やノウハウをベトナムの子会社を通じて海外に販売
- 3D スキャナを活用した製品データ取りサービスを、製造業企業向けに提供

製造設備と情報基幹システムとを連携させ、将来的に全ての製造設備をネットワークで連携し、データの管理や稼働状況の一元管理ができる体制（スマートファクトリー）を実現していく

